



吾輩は駒である



夜美神威

概要

コンビニ店員さん、ファミレスの店員さん、ガソリンスタンドの店員さん
警備員さん、交通整理員さん、理容師さん、
警察官、消防士、医者、看護師の公僕の皆様
証券マン、営業マン、ウルト○マンさ～ん
お仕事ご苦労様です！！

さあ一年に1度やって来る勤労感謝の日こそ
皆様大いにはっちゃけましょう。

ブログで公開されたショート・ショート20編

意味を理解すると怖い話5編

プチショートショート3編

yami story's エクリプセ・リュヌ～月触～ポラリスの軌跡

そして書き下ろしショート・ショート5編収録

はじめに～これから吾輩は駒であるをご覧になられる方へ～

この作品は本人格NEO（ネオ）が
他の人格達と共に作り上げたショート・ショート集第3弾
電子書籍専刊になります
そう言えば中学生の頃、星新一氏の作品に出会い
私の空想の世界は広がりました
星新一氏の物語を構築する術は素晴らしい物があります
ショート・ショートと言うのは活字を読むのが苦手な読者でも
短い文章の中にあらゆるテーマが含まれており
起・承・転・結そして「変」があつてこそ
ただし星新一氏の文章でも長いつて思った私は
より短く文章をまとめる事によって星新一氏とは一線画す狙いがあります

駄文も駄文から始まった作家活動も6年目を迎えました
作家として花が中々開かない私ですが芽が出たことは嬉しかったです
「ALIVE NOTE」（北星社）「Perfumeless」（ブイツーソリューション）
を自費出版して書籍を世に送り出せた事
有料化に向けて動き出している「吾輩は駒である」で電子書籍デビュー

しかし今の時代パソコンとネット環境さえ整えば
誰もが作家デビュー出来る時代になりましたね
昔の文豪達は紙の原稿にインクのペンでしたから
それがパソコンでネットでキーボードが・・・
時代の革新と言うやつですね

障害者の私が他の人格達と協力して
世に送り出す事が出来ましたがまだまだ満足していません
無料公開に踏み切ったのも
より多くの人に私の作品に触れて欲しい！その一言に尽きます

主にNEO（ネオ）を含め人格達で構成される
「GANERF」と言うアーティスト集団で作家活動しています
肉体は一つだけど思考は千差万別
様々なアイデアやネタなどまだまだあります

無料公開ですので今後更新されていくかも知れない本作

新たなチャレンジを惜しまずどんどん前に進んでいきますので
応援よろしくお願ひします

b y GANERF 夜美神威

食品汚染問題

ある日こんな事件が起こった

「〇×フーズの食パンからカルキ臭がすると言う消費者からの情報提供がありました」

「社長大変です」

「なんだ？」

「わが社のパンからカルキ臭がすると消費者の一部から苦情が」

「ぬあ〜にい〜」

「あれだけ衛生管理には力を注いで来たのにね」

「水道水は厚生労働省の安全基準を満たしているし」

「工場内のパイプや管も常に綺麗な水で洗浄してますし」

「うん」

「原因は？」

「分かりません」

自分応募券

ある日コンビニでタバコとコーヒーをかうとこんな物がついてきた

「応募券」

その日俺は前に付き合っていた彼女から

「警察に連絡してもダメなんだね・・・このストーカー」

はぁ俺はそんなつもりはないただ彼女と話し合いよりを戻したいだけ

そんな中ふと立ち寄ったコンビニでタバコとコーヒーそして小腹が空いていたので

サンドイッチを購入するためレジへ

「770円になります」

元気で明るい声可愛いなぁ～名前なんて言うんだろう名札には「井岡」井岡さんって言うのか

よろしければこちらの箱からクジ引いて見てください

俺はさっそく500円で1回のこのクジを引いた

「応募券」

「こちらがチラシです！ありがとうございました」

家に帰りチラシを見て驚愕した

「俺じゃん？」

M君に会いに行こう

応募券3枚でチケット交換

場所自宅

はずれM君クリアファイルもしくはM君キーホルダー

・・・「誰のいたずらだ！こんな事して許されるとでも思ってるのかそいつ」

ピンポン

ふいに家のチャイムが鳴った

「はい」

俺が玄関まで行くと見知らぬ女の子たちが5～6人

「これお願いします」

渡されたのがチケット

お邪魔しまーす

「ちょっと待ってよ」

「お母さん」

「どうぞどうぞこちらへ今温かい飲み物とケーキ出しますね

M君はみんなの相手をして」

相手してって言われてもって言ってる間にまた玄関のチャイムが

チケットを見てみると応募券3枚でチケットと交換と書いてある

誰だこんな真似したの

企画：あなたの元カノ

模倣品対策

やったぜえ～

やっと手に入れたあ～ガン〇ムネオZEON軍の幻のZIPPOライター

29800円もした

毎月バイト代貯めてようやく手に入った

正規品でZIPPO専門店を手に入れた

お店の特別なガラスケースに入ってた念願かなってのZIPPOデビュー

けどお店のの人に勧められたZIPPOオイル買わなかった

だって100均で売ってるんだもん うふ♪

お店の人「ZIPPOを作ってる会社はオイルでも特許取って

正規品でしか扱えない・・・ってか聞いてないなこの客」

なんか言ってるなあ～お店の人、正規品でしか扱えない？

そんな訳あるかオイルなんてみんな同じだぜ

早速帰りしな100均に行ってオイル買って来た

え～とオイル、オイルあったタバココーナー

なんだいっばいあんじゃん

正規品だと500円するのにここだと100円だぜ

買って来た大切なネオZIPPOにオイルちゃん入れてっと・・・

.....

.....

.....

!?

点かない？えっ

何度火を点けようとしても点かない

ZIPPOの説明書を見ても問題無し

オイルかなあ～

ん？

.....

.....

.....

!?

えっZIPPU!?Uってなんだよ?

俺は試しに灰皿にオイル入れて普通のライターで

火を点けてみた・・・点く!!

なんで?

ZIPPOの説明書にはこう書かれていた

「ZIPPOライターオイルの模倣品にご注意下さい」

私のお兄ちゃん

よし妹に自慢してやろう

私は彼女いない歴23年

とにかくラブレターやバレンタインチョコなど

一度ももらった事が無かった

だったら自分で出してやろう

「拝啓 M様 中学時代のAです

ずっとあなたが好きでした・・・

~~~~~

よしこれで良い

現在2175年

自宅の郵便受けに手紙などを入れておくと

郵便配達員が回収してくれるシステム

遅すぎるやろって思う

もう郵便ポストの時代は終わった

翌日

あれ？Aちゃんから僕宛に2通手紙が届いてる

一つは僕が書いた物だ

もう一つはっと

.....

.....

....

！？

本物のA子ちゃんだあ～

「なあN子」

「何？お兄ちゃん？」

「ほら？お兄ちゃんラブレター貰ったんだよ凄いだろ」

「うわ～凄いじゃん見せて」

「ダメダメこれはお兄ちゃんとA子ちゃんの秘密」

~~~~~

「お兄ちゃんたら・・・自宅のポストに手紙入れとくだけで
手紙が回収される訳ないじゃないまったく」

「ちょっと出かけてくる」

「どこいくのお兄ちゃん？」

「デートだよっA子ちゃんとね♪」

魅惑の表紙

・超有名人MアイドルグループZのTとT二股交際三角関係
どうなる！Zの終わりなき革命は第5話へ

・ニタニタ食堂カロリー計算誤る
社員20kg増量

・日中戦争は仕組まれた！！
東条英機と毛沢東でアメリカを牽制するため
巨大戦争を引き起こして誘い出し
後の・・・

「いいのかぁ～こんな事書いてて」
「良いんじゃないっすか？別に俺たち適当な事書いて
飯代だけ貰えれば良いんですから」
「でもこの日中戦争は無いよな？～」

「ねえねえ何の話？」
「あいつだよ・・・いつも一人でいる変な奴」
「うん・・・図書館行ったり、パソコンで調べものしたり」
「日中戦争の話本当かなあ～」

「みんな集まって・・・私たちこれで良いのかな・・・
どうしたんです？」
「見てこれ？」
「はがき？手紙？メールとかですね？」
「読者の反応？・・・ですか・・・」
「あの日中戦争の記事ですね」
「あれねどうやら本当らしいわよ」
「本当ですか？」

「うん・・・でもね・・・誹謗中傷の記事らしいよ・・・」
「よく読んでみようよあれ」

「凄い！！この記事もう一度調べなおして！！山中君」
「はい！」

こうして記事を読んだ編集者達は一生懸命になりました

ドリンク場一

私はファミレスを経営しています

そのお店にはドリンクバーがあって

200円でソフトドリンク飲み放題！！

私はキャンペーンで大きなコップでジュースでお腹を満たして貰い

店の評判を良くしようとした

そこへ近所で評判の「たぬき」のNさんがやって来た

彼は大きなコップに満杯に入れ飲み干して帰って行った

たった200円で・・・

他のお店より大きなコップ・・・

その事を近所で評判な「キツネ」Mさんがの近所の人たちに伝え噂は伝わり

他のお客さんも大きなコップでジュースいっぱいにして帰って行った

これで良い！！キャンペーンを終了して同じ200円でコップを小さくして

そこへ近所で評判の「たぬき」のNさんがやって来た

彼は小さなコップで何杯もお代わりして帰って行った

その事が近所で評判の「キツネ」のNさんの耳に入り・・・

するとお客さんはその小さなコップで何杯もお代わりして

結局キャンペーンの時と同じ経費が掛かってしまった・・・

そのかわりキャンペーンのおかげで店の評判は上々経営も上手く行ってます

人類の歴史

「おお博之何だそれ？」

「新しいタブレット端末だよ・・・って言ってもおじいちゃんには分からないか戦争世代だもんね（笑）」

「そうだなあ～おじいちゃんの若い頃はそんなもん無かったぞ～時代も進歩したもんだ

「おじいちゃんの時代はテレビ？ラジオ？何が流行ったの？」

「流行歌なんて言ってなあ～」

「演歌とは違うの？」

「博之は学校で今何勉強してるんだ？歴史とか？」

「江戸時代まで行ったよ～徳川幕府何代まで続くねんアレ（笑）」

（いやな博之・・・今の若い連中は知らんのだがほんの80年前まではこの地球にはな

人類なんて住んで無かった・・・人類は他の惑星からやって来たんじゃない
昔わしらが住んどった惑星は環境汚染で住めなくなってこの惑星に

80年前に人類にとって邪魔だったんだろう

地球にいた恐竜を絶滅させて移住して来た

わしがちょうど10歳の頃だったと思う。

すでにタブレット端末なんてあったぞい

一度科学技術も解体したんじゃない

じき真実を知ると思う・・・

なぜ政府はこの事を今の若い世代に隠しているのかは分かる・・・

歴史を創りたいんじゃない地球での人類の歴史をね)

サインボール

俺は学生時代遊ぶ金欲しさに芸能人やスポーツ選手のサインを書いてそれを売っていた。もちろん俺が書くので偽物これを最後にこんなあこぎな商売を引退しよう
とある小学校の近くで露天を開いていると目をキラキラさせて商品を見入る少年が居た
「坊や何か欲しい物あるかい？」

すると

「玉選手のサインボールが欲しい」
玉選手と言えば世界のホームラン王で有名
野球界のスーパースターだ
俺も大ファンでいつも模写する為に本物のサインボールを持ち歩いている
少年は野球ボールを食い入る様に見入り
純粋なその眼差しに俺は戸惑った
「はあ・・・参ったなあ」

今ちょうど玉選手のサインボールは切らしている

俺は本物のサインボールを少年に渡した

「お金こんなけしかないんだけど」
出してきたのは200円
「・・・代金はいらぬぜ！大切にしなよ！」

「ありがとう！おじさん！」

少年は嬉しそうに満面の笑みを浮かべその場を去っていった
しばらくすると警官がやって来て

「これ皆本物？売ってるの？」

「本物です。物々交換です」

「ちょっと署まで来てくれるかな？」

俺は取調べを受けることになった
商品が偽物とバレたら大変だな・・・

しばらくして確認が取れたようだ

「いや～ご足労かけた、あのサイン物は皆本物みたいだ」

非常用持ち出し袋

我が家でも災害に備え非常用持ち出し袋を用意しとかなければな

「この袋に何入れる？」

「懐中電灯だな」

「携帯ラジオとか」

「電池も忘れずに」

「乾パンもね」

「暇な時はどうしよう」

「トランプとか？」

「僕はPSPだな」

「だったらソフトも忘れずに」

「思い出の品とか」

「この間海へ行った時の貝殻とか」

猫たちの本音

ん？猫の鳴く声がする

「ニャーニャーニャー」

「ニャニャニャ」

ふふ楽しく会話してそうね

訳

「お前ふざけんじゃねえぞ俺の女に手を出して」

「知らなかったんだよ・・・てかあの女尻軽だぞ」

未来から来た自分

平凡な日常を送っていたある日
未来から一人の青年がやってきた
その青年は自分の事を未来からやって来た自分と称し
私に対して様々な要求をしてきた
学校でテスト勉強を強制したり
恋人選びから仕事探しなど
一通り彼の要求を満たし彼の思うがままの私になった
すると彼は満足して未来へと帰っていった

私は今過去に来ている
過去に未来から来た自分に好き勝手されて
自由が奪われ楽しめなかったからだ
今の自分には満足している
好きな仕事について素敵なワIFEも居て可愛い娘もいる
ただ青春時代を謳歌したい
私は過去の自分にああしろこうしろなんて一切何も言わなかった
過去の私は青春時代を思いっきり謳歌した

未来へ帰ると恐れていた事は何も起きてなかった
好きな仕事に行き素敵なワIFEと過ごし可愛い娘とハグする

ただ一つ違う点は
好きな仕事は変わっているし素敵なワIFEも違う人だし
可愛い娘も違う子だ

喫茶店のコーヒー

キツネの喫茶店は閑古鳥が鳴いていた
とにかく客が来ない
サンドイッチにミートスパゲティにハンバーグ
朝はモーニングに昼はランチメニュー
何がいけないのか
ある時近所で業務スーパーを営むタヌキさんが
お店にやって来て一言
「このお店のコーヒーはあまり美味しくありませんよ」
そうか！コーヒーか！

キツネは方々理想のコーヒーを求め探し回ろうとしたが
あのタヌキさんがコーヒに詳しそうだったので
タヌキさんが経営する業務スーパーへ
すると

「特売！タヌキの美味しいインスタントコーヒー」

50%OFF？これだ！

早速大量売れ残っているこのコーヒーを買って
自分のお店で一杯350円を出してみた
すると客に大評判！！来るわ来るわの大盛況です

キツネはタヌキにこう言いました
「コーヒー好きで家で楽しむため・・・え～と友人や知人に振る舞ったり
親戚に配ったりあと友人たちや知人に配ったり・・・」
するとタヌキは
「どうぞどうぞどんどん買って行って下さいな」

キツネはこの喫茶店のコーヒーをスーパーに卸しました
「タヌキの美味しいインスタントコーヒー」

賊

ある日

山賊が海に行きました

「よし今日からは海に来たから俺たち海賊だ」

ある日海賊は山へ行きました

「よし今日から山へ来たから俺たち山賊だ」

海賊と山賊をやめた人たちは街に出てバイクを乗り回しました

パトカーに追い回されて沿道の人にこう言われました

「嫌ねえ暴走族って」

衣装が無い！！

私如月亜美！

今日は大事なコンサートってか今時コンサートって言わないか

ライブって教わったんだけどね弥先輩から

さてとりハーサルはいつも通りなんだけどね

まあファッションにはうるさい私は普段着も気にかけてる

今日はダサイ・・・でもお気にの青のパーカーに白のショートパンツ

帽子はエマソンブランドの茶系の耳が隠れるニットキャスケット

2～3曲歌って終了

ココだけの話リハーサルで全曲歌って本番口パクってってアーティストがいる

それはパフォーマンスが激しいからなんだってさ

何曲か歌ってるみたいだけど

中にはパフォーマンス激しいけど歌ってる凄いアーティスト集団もいるらしいよ

さていよいよ本番・・・お客さん集まってきたあ～テンション上がってきたあ～

えっ・・・

衣装が届いてない？嘘お～

どうすんの？

これでやれってか・・・マジですか？

やれって言われたらやるしかないでしょこれだけ客入ってんだし

たく・・・もう・・・とうっ

~~~~~

「え～今日のライブいかがでしたか？えっ衣装替えが無い？

ハイ、スタッフの手違いで衣装が間に合わず普段着ですこれどう？」

「可愛い？ホント？ありがとお～」

ファンの会話

「おい見たかあの普段着めっちゃ可愛かった」

## 絶対に願い事が叶わないペン

---

少年は願い事が叶うペンが売ってるお店に行った  
しかしすでに売り切れていてガッカリ  
その隣には

「絶対に願い事が叶わないペン」

これを買おう

このペンを買って  
早速少年は家に帰り買ってきたペンで  
使いかけの古びたノートにこう書いた

(絶対に宝くじが当たりません様に)

## 防水

---

最新の防水腕時計G-SOOKを買った  
もちろん正規のお店で価格は1万9800円したかな  
常に愛用、時間を知る時はやっぱり腕時計だよ

とある日お風呂に入るとき急いでいてその腕時計を  
外さず入った  
平気さんせ「防水」だからね

でも壊れてしまった・・・さっそくメーカーに問い合わせた

「わが社の製品は確かに防水です」  
「でもお風呂に入ったら壊れましたよ？」  
「水風呂ですかそれとも温かいお湯のお風呂ですか？」



喧嘩するほど・・・

---

私は天使

天使って言ってもまだ見習いだけど

ここに一組の夫婦がいる

「あなた！またこんなに遅くまで飲み歩いて！」

「付き合いだよ！うっせーなあ」

でもね喧嘩ばかりしてるこの夫婦

ある時期だけお互い優しくなるんです

「大丈夫・・・あなた」

「ああ・・・だいぶ良くなった」

病気になった時

不思議ですね

だから私良い事思いついちゃった

常に夫を病気にしとくと

夫婦喧嘩しなくて済むんじゃないかなあ～って

てへ私って天才

## 転職

---

とある盗賊団があった  
その盗賊団のお頭が亡くなって  
若頭が皆にこう言った  
「お頭が亡くなって早6年  
この盗賊団を解散しようと思う」

皆はそれぞれ次の職を探しに各地を転々とした

とある山に拠点を構えた輩はこう言った  
「我々は今日から山賊だ」

とある海に拠点を構えた輩はこう言った  
「我々は今日から海賊だ」  
その他の輩はとある街中でこう叫びながらバイクを乗り回した  
「我々は俺たちは自由だあー」

それを見ていた住民達はこう言った  
「いやねえー暴走族って」

## 犬のエサ

---

とある一家

夫婦共働きながら子沢山でとても裕福とは言えない家庭があった

ある日

子供が犬を拾ってきた

「飼うの？面倒ちゃんとみれる？」

こうして犬が家族の一員となった

エサはお店で一番安いやつで良いわねと

与えられたエサを美味しそうに食べる犬

「母さん今日の晩飯は？」

「水炊きですよ お肉無し」

ある日

近所を犬と散歩中同じ近所で犬を飼っている人にこう言われた

「うちの犬は良いエサを食べてるんですよ！その方が長生きするって言うし」

そこで家族会議

「1食500円のエサ？高すぎやしないか？」

「でもこの子にだけは良いもの食べてもらいたいの」

「僕たちが我慢すれば良いんだよね」

犬は黙って聞いていた

「さあ高いエサだから美味しいよ」

犬は見向きもせず安いエサの袋の前で吠えた

「こっちのエサの方が良いの？遠慮してるの？まさかね」

こうして犬のエサは安いエサ

「母さん 今日の晩飯は？」

「いつもどおり水炊きですよ お肉無し」

「おい！起きろ！」

「あん～あ～かったりい～」

「ねえ知ってる富士山が世界文化遺産に認定されるって噂だよ！」

「んなわけねえだろ」

「だってさっき観光客が話してたもん」

「そんなの嘘に決まってるだろ！第一誰が  
こんな汚い山を文化遺産にするんだよ」

がががががが

（この辺なら見つからねえ）

ガタンガタンガタン

「痛ててててて」

「よお新入り」

「ああどうも」

「お前横長テレビちゃ～今流行の液晶テレビじゃねえ？」

「もう時代は4Kですよ・・・主人に捨てられちゃって」

「俺なんかアナログテレビだぜ見てみろよこのデカさ（笑）」

ザ～

「雨か・・・ん？」

がががががが

（ここら辺り酷いな・・・ここらから手をつけるか）

「どうやら俺たち」

「天に召される時が来たようだ」

「天国に行っても一緒だよ」

「生まれ変わったら何になる？」

「とりあえず家電製品だけは御免だ」

## 神の降臨

---

大天使は困っていた

神が人類を創造した時はまさかこんなことになるとは思わなかった

あらゆる事象に精通している神も

未来を当てる事は叶わなかった

何故なら未来が分かれば人類をもっと良き未来へ導くため

より高い「知性」を与えていたからだ

一人の従天使から助言があった

「大天使様もはや人類の前に現れたらどうですか？」

確かに

犯罪に環境汚染・・・モラルの低下に・・・

神は宇宙の神々同士の会合に出るために留守中

「ん～もう我慢できん」

そう言うと大天使は人類の前に現れた

「人類よ！私は神だ！今後は神が人類を導く」

人々は驚いたが神の登場に歓喜した

従天使は人々から意見を聞き神に助言した

「大天使様、人々は犯罪を恐れています」

大天使は人々にこう言った

「人類よ、もし犯罪を行うのなら私は厳しい罰を与える」

善人は歓喜し悪人は身震いして犯罪を行うのをやめた

すると警察や裁判所など犯罪を取り締まる関係各所が無くなった

従天使は人々から意見を聞き神に助言した

「大天使様、人々は仕事が辛いとっております」

すると大天使は人々にこう言った

「人類よ、仕事はもうしなくてよい。あらゆる物は私が作る」

仕事に疲れていた人々は歓喜した

すると企業、工場は閉鎖し人々は仕事をしなくなった

従天使は人々から意見を聞き神に助言した

「大天使様、人々はお腹を満たして欲しいとっております」

すると大天使は人々にこう言った

「人類よ、もう農業もしなくてよい。あらゆる食物は私が作り自由に食べてよい」

農業に疲れていた人々や食料に飢えていたは歓喜した

すると農家は食物を作るのをやめ畑や田んぼは荒れ放題

ここまで来ると人類は満足だった・・・しかし何か大切な事を見失っていた

神が大天使の元にやって来た

「留守の間何か変わった事はないか？」

すると大天使は

「人類を救済しました！」

神は下界の様子を見て激怒した

こうして大天使は地獄へと落とされた

## 切磋琢磨

---

海外からデジタルオーディオプレーヤー  
が入ってきて大盛況  
我が社も総力を結集して開発に  
乗り出した

フルスペックハイビジョン液晶  
タッチパネル  
カメラを内側と外側  
アプリケーションも豊富も豊富に揃え  
色は最初は白と黒  
どうせならと電話とメール機能を追加

すると海外からスマートフォンなるものが  
入ってきて大盛況

基本機能の電話とメール  
フルスペックハイビジョン液晶  
タッチパネル  
カメラを内側と外側  
アプリケーションも豊富に揃え  
色は最初は白と黒  
こうしてわが社の機能は海外のスマートフォンと同じ  
デジタルオーディオプレーヤーを発売していた  
皆様はどちらも商品をお買い求め  
になりますか？

## 生へのカウントダウン

---

なんだろうこの暖かさ  
確か一つになってからずっと何かしら暖かさを感じる  
温かくそして暖かい  
僕は走った  
果てしない道のりを  
ん長細いものが二つあってその先に五個短い棒がある  
なんで見えるんだろう  
何だろうこの音...  
ん  
光...  
オギャア



## 絶対に当たる占い

---

これから絶対に当たる占いをします

「あなたは今生きてますね」

「あなたは今ネットしてますね」

「あなたは今絶対に当たる占いで記事を見てますね」

どうです?絶対に当たっているでしょ

## おば参謀

---

「一人二合までだよ」

私は従軍給食係長M

ちょっと太ってるけど愛敬なら

誰にも負けない可愛いおばさん

ここは敵の植民地の前線基地

これから司令官の挨拶が始まるわ

「え～我々は帝国主義陣営から植民地

奪還し独立の戦いをしてきたここが

帝国側の最後の植民地となる」

「司令室にお茶をお持ちしました」

「敵は山からやってくる」

「いや平野だ」

凄い議論です

どれどれ

「何だね君は」

「敵は平野からやってきます」

「何故だね？大体素人が...」

「まあいい話してごらん」

「はい」

「この資料によると敵は凄い重装備  
してきますね」

「ああスパイからの報告ではな」

「そんな重装備で山を登れますか？」

「なるほど」

「あくまで私の個人的な意見で...」

実際私の意見が通りあらかじめ

平野に待ち伏せしていた我が軍が大勝利!

「司令室にお茶をお持ちしました」

「明日は晴れなので～」

「お待ちください」

「また君かね」

「明日は雨です」

「でも天気予報では晴れだと」

「敵の工作じゃないんですか？」

「何故明日は雨と」

「湿気がね特有のものがあって

それより明日の作戦バレてませんか？」

「ああバレてて良いんだ問題は天気

兵士の服装や武器も異なってくるからね」

当日は雨です。レインコートに雨天時の

武器など装備

作戦も見事に成功して大勝利!!

その後数々の作戦立案に加わり

私についたあだ名は(おば参謀)

これらの出来事は基地中に知れわたり

それを快く思わない人達が出てきました

食堂にて

「みんないっぱい食べるんだよ」

「おい」

「ああ」

「あ〜ゴキブリが入ってるぜおば参謀」

「どうしてくれんだあ〜」

「自然の中で生活してるんだゴキブリ

くらい入ってるだろ」

「上官殿...ちえ」

ある夜の事です

「失礼します、司令官様」

「どうしたこんな夜更けに」

「向こうの山から狐が数十匹こちらへ

逃げ込む様にやって来て恐らく敵が

やって来ているのではないかと」

私の予感的中です

早めに気付いて良かった

敵がいる山に向かって集中砲火

敵は一目散に逃げました

こうして

我が国はこの戦争に勝利

帝国主義陣営の全ての植民地を分離独立

させることに成功したのでした

表彰式にて

「私は一人の勇気ある女性にこの勲章  
を捧げたい。

その女性は男性の職場～いや戦場におい  
て癒しになり勝利の女神となった

M氏ありがとう」

「よお」

「あのゴキブリ騒動の時の子達だね」

「あの時はごめん。また美味しいビーフ  
シチュー作ってくれよな」

戦争とは何か？

戦争の時、女性の出来る事とは？

戦争は人を育てるって言う人もいる

でも戦争が無ければもっと人は賢く育つ

そう思うおば参謀なのであった

「おば参謀これからどうするの？」

「実家の食堂再開するから皆で食べに来て」

## 書き下ろしショート・ショート

---

ここからは「書き下ろしショートショートです」

## ふしぎなりモコン

---

「今日はとっておきのジョーク披露するぜ」

「どんなのだい？」

「部屋に帰りテレビのリモコン押すとエアコンが付いて  
エアコンを消そうとエアコンのリモコンのスイッチ押すと  
ラジオが付いてラジオを消そうとラジオのリモコンのスイッチ押すと  
エアコンが消えるのさ」

「変わってるね！でテレビはどうやって付けるんだい？」

「・・・・・・・・・・じゃあな」

「あっ逃げやがった」

プチショート・ショート

---

ここからは「プチショート・ショート」です

## 金のなる木

---

植物園が金のなる木を発売

植物園にとって金のなる木



## マンガ

---

マンガを読もうとして僕は先に勉強をした  
テレビもラジオも好きなアイドルのBDも我慢して

作家なら何か造語を感がえねば！！

## 近未来

---

あれ味がしない

何故？

故障かな？

## 意味を理解すると怖い話

---

ここからは「意味を理解すると怖い話です」

あつい

---

このところ毎日風呂に入るがなんてあついんだ  
はぁ気持ち良かったやっぱ水風呂って良いや

## 無くないタバコ

---

空のタバコの箱にタバコを詰める

吸う

また詰める

吸う

いや～いいなこれいつまでたってもたばこ無くないや

ここからはyami story's「エクリプセ・リュヌ～月触～ポラリスの軌跡～」です

## エクリプセリュヌ～月食～ポラリスの軌跡

---

12月の満月の夜

英国ブリュッセルの宮中では晩さん会が開かれていた

国内外の王侯貴族を招いての盛大な催し

英国にとってこれを橋掛かりに仇敵フランスへの侵攻を模索していた

「あなた！！」

「ここではエドワード1世と呼びなさい」

「こんな日に限って他の女に手を出すなんて」

「女中が女の人とトイレに行く処を目撃してるんです」

「あはは彼は男だよジョンソンって言ってね今重要な……」

「お・と・こ？なおさら許さないわよ」

何を喧嘩してるんです

「お母様」

「息子は浮気するような子ではないわよ、それはあなたが一番よく知ってるじゃない」

「でも……」

「ねえ～マリー」

「何です？」

「エドワードが女の人と一緒にトイレに入ったんですって」

「えっ？」

「彼はそれは男だよって男同士でも一緒にトイレに行く事ってあるのかしら？」

「さあ～好みによるものかと」

「他人事だと思って……もう良い今日はもう寝るわ」

「ちなみにどの女中から聞いたのです？」

「ベトよ」

「あの黄色人種？」

「やあ田中！彼女とは上手くやってるかい？」

「カラか？まあ愛人だけどね」

「最近世の中物騒だこの間も警察署で銃が無くなる事件が会ってね

テロリストから押収したカラシニコフさ」

「怖いね」

「それより田中、彼女は？」

「ベトかい？あれじゃ奴隷だよ、今日も王宮仕官に文句言いに行ってきた所さ」

「それよりチスの方は？」



「俺か？ジョセフって綺麗な女性が居てね～狙ってるんだ  
でもその為には金が必要出しコネも必要」  
「またユダに頼んで出して貰うのかい？」  
「ああもし断ったらやつとは絶交だな」  
「なにやってるんだい」  
「ああローラは元気してるかい？ピッツァ」  
「ああ毎晩愛を語り合ってるさ、それより田中例の件」  
「ああベトかい？」  
「諦めた方が言いと思うぜこの世界は白人が支配してる黒人は元より黄色人種も相手にされな  
いさ」  
「でも抗議はする。それに世界はこれから理解ある方向へ変わっていくと思うしね」  
「ふん間抜け、俺はユダに合ってるじゃあな」  
「ああ田中！飲み行こう」  
「良いのかい？ローラ帰り待ってるよ」  
「君だってカラや本妻が居るだろ？そういう悩みとか男同士の話しようぜ」

「ジョンソン」  
「はい」  
「僕と君が妻や女中から疑われている」  
「中にはフランスの諜報部員も居る可能性があるからね  
気をつけた方が良い」  
「それより今日暇か？」  
「はい」  
「だったら狩りに出かけないか？」  
「良いですね！先にやっておくべき事がある」  
「おいここに田中を呼べ」

・・・  
「何か御用ですか？」  
「今日狩りに出かけるんだが君も来るか？」  
「それより直接お話ししたい事が」

・・・  
「ベトの解放だと！？」  
「はい！無償で・・・」  
「食事と寝所は与えている」  
「与えているって元々ベトの家だった所にあなた方が来られ  
接收した拳彼女を奴隷扱いに・・・」  
「もう良い！下がれ！今日を持って君の役職は解く」

「・・・」

「ユダ！！金を貸さないつもりか！！」

「はい」

「どうしても貸さないのか！」

「はい」

「ならば！！」

「ローラ違うんだ」

「あなた浮気してるでしょ！！街であなたと女性が歩くの見たって人が！」

～それから数日後～

「チスだな！ユダ殺害容疑で逮捕する！」

「畜生～」

ポォ～ン

「何だ？」

「馬小屋から煙が」

「ベト！」

「田中さん？」

「さあ！早く」

「こっちだ！」

「逃げられた」

「目撃者は？」

「田中がベトを連れて外へ！！」

・・・

「ベトいいかい？これで自分の国に帰るんだ」

「ありがとう！田中さんは？」

「姿を見られてる逃げられない、僕の事は構わず」

「私ね母国に帰って工場に勤め精一杯働くわ」

「そしてそのお金で国を豊かにするの田中さんの国のように」

・・・

「田中だな？」

「はい」

「王宮不法侵入、馬小屋爆破、使用人誘拐で逮捕する」

「よせやめろ！」

パン

「自害？田中がか？」

「はい・・・」

~~~~~

え～夜美神威です

この作品は実験的な作品です

第二次世界大戦を恋愛もしくは現代劇になぞらえた作品

更新で完成に近づきたいと思います

無料だから文句言わないで下さい

おわりに～吾輩は駒であるをご覧になられた方へ～

今回は電子書籍では初めてタイトルバックを入れました
エクリプセ・リュヌ～月触～ポラリスの軌跡は実験的な作品

私には少なからずファンもいてアンチも居ます
双方にとって何かしら影響を与えてしまうのが怖い

「ペンは剣よりも強し」

文章は時に人を感動させる事も出来るが同時に傷つかせる事もある
作家には「文」と言う物に責任があり逆に言論・表現の自由の国である日本
に生まれて自由な発想で作家活動できる喜びも感じています

今作は障害もありつつそれを乗り越え出来上がった作品なので
喜びもひとしおです

では更新があるみたいなので完成に近づけて行きたいです

b y GANERF 夜美神威

吾輩は駒である

<http://p.booklog.jp/book/80001>

原案・企画：GANERF

著者：夜美神威

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/yaminoshizuku/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/80001>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/80001>

©kamui Yami printed in japan

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ